

日本大学

NIHON UNIVERSITY DISTANCE LEARNING DIVISION ALUMNI ASSOCIATION

通信教育部校友会報

発行所：日本大学通信教育部校友会
発行責任者：鈴木 勝/編集責任者：師田 袈裟茂

〒102-8251 東京都千代田区五番町12-5 TEL・FAX 03(3234)5858
通信教育部校友会ホームページ：<http://www.nuid-d-koyukai.sakura.ne.jp/wp/>

令和元年5月25日開催

第48回定期総会報告

孔子曰く、益者三楽、損者三楽、
落節禮樂、樂道人之善、落多賢友、
益矣、落驕樂、樂佚遊、樂宴樂、損佚
孔子曰く、益者三楽、損者三楽、
礼楽を節せんことを楽しむ、人の善を道うことを楽しむ、
賢友多きを楽しむは、益なり、驕樂を楽しむ、
宴樂を楽しむは、損なり

【論語】

会長挨拶

日本大学通信教育部校友会
会長 鈴木 勝



第48回定期総会・懇親会が、多くの校友の出席をいただき開催され、議事全てを承認いただき、ありがとうございました。ありがとうございました。ありがとうございました。今年度は10連休という今までになかった休日を体験しました。5月に入つたところが、関東地方の天気は大荒れで、ピンポン玉くらいの雹が降つたかと思えば、30度を超える真夏日が続いています。皆様体調にご留意ください。

「令和」に元号が変わり、国民全体が「三位一体の発展」を受け入れるのは初めてのことになります。いろいろなところで「祝令和」「キャンペーン」があり、校友会としても、何か「祝〇〇」といったようなことを実施したほうがよいのかな、と考えているところです。

そんななか、今年は通信制大学院が通信教育部に組み込まれることになり、教職員だけでなく、大学院生も仲間になることになりました。それにとともに、通信教育部3号館の2階で校友会も、所帯がひとり大きくなられたことを報告いたします。歴代のち寄りください。

今年度の学生数は、5月1日時点で7283名となっています。それに通信制大学院生183名が加わり、大所帯になりました。学生支援のことも考えていかななくてはなりません。

また、通信教育部校友会は、3年後の2022年に設立50周年を迎えます。50年という節目に、何か行事を実施しようと考えています。記念誌の発行・記念品の作成・記念旅行・記念講演等々です。校友皆様の意見を募集しております。

なお、記念事業実行委員も募集しております。皆様の力を貸してください。よろしくお願いいたします。

最後になりますが、校友皆様の多幸とご健勝を祈念して、私の挨拶と致します。

研究科長ご挨拶

日本大学大学院総合社会情報研究科
研究科長 階戸 照雄



校友会の皆様、本年4月1日より通信教育部とご一緒させて頂くことになりました。この紙面をお借りして、私共大学院を簡単に紹介させても頂くとともに、今後とも通信教育部と合わせて、私共大学院、修了生、在校生に対し格別のご支援とご配慮を賜りたく、お願い申し上げます。

私共大学院は、独立大学院として、インターネット等の遠隔教育手段をとると、単位認定がなされませんので、不足する単位を転部先であるために修得する必要があります。従って、肝要となるのが、学生に不利益を発生させないよう、四学部とカリキュラムを迅速に共通化していくことが課題の一つとなります。

また、近年の社会情勢の変化の速さには目を驚かすものがあり、変化に教科書の更新が追いついていない状況が存在しております。法律の分野でいいますと、商法は毎年のように改正がされており、民法も債権法の改正が来年度予定されています。情勢が変化した場合、授業を担当される先生方には、速やかに教科書の改訂をお願いしております。しかし現実が先を歩き過ぎて、それが間に合わない場合もあります。そのような場合には、最新の資料を受講生に配布していただくなどとして、授業を工夫していただいております。そしてこれは、教科書だけに限定されず、話ではありません。通信教育部ではメディア授業も展開しております。メディア授業による「映像と音声で、いつでもどこでも分かりやすく学べる、インターネットによる学修方法」は好評をいただいております。このメディア授業も含めて、教材を常に最新版に保つことも「教育の質保証」、「学生ファースト」に合うものでありますので、着実に進めていきたいと考えております。校友会の皆様も、どうか協力をお願いします。

最後に、校友会の今後のますますのご発展・ご隆盛をお祈りすると同時に、通信教育部にご支援いただけますようお願い申し上げます。

部長ご挨拶

日本大学通信教育部
部長 川又 祐



通信教育部校友会の皆様、第48回定期総会の御盛会、お慶び申し上げます。また日頃より通信教育部にご協力ご支援をいただきまして心からお礼申し上げます。本年4

月から、通信教育部長は期待できない、と私とはなりまじりました。考えております。その意味で校友会の皆様からは、第48回定期総会懇親会へ在学生に参加の機会をいただき、ご配慮いただいております。在学生にとっても校友と触れ合う場が与えられ、その後の自身の学びや、キャリア形成に大きな一助、励みとなることは間違いありません。校友会の皆さまが在学を応援していただければ、その発展に貢献させていただきます。

さて、通信教育部が直面する課題について述べさせていただきます。通信教育部は法学部、文学部、経済学部、商学部の四学部の通信教育課程で構成されています。この四学部との連携は通信教育部にとつてきわめて重要な課題です。日本大学は、「日本大学教育憲章」を定めております。そのもとに大塚学長は「教育の質保証」の、田中理事は「学生ファースト」の実現を願っております。四学部の通学課程において、令和2年度を目標としてカリキュラム改定を予定しております。これに連動し、通信教育部の四学部もカリキュラムの改訂が必要になるかもしれません。その場合、最長で12年間の在籍期間が認められている通信教育部の学生にとつて、在籍中にたとえば開講科目に変更が生じるのは多大な影響が発生することになるとも考えられます。また学部から通信教育部へあるいは通信教育部から学部への転籍を希望する学生にとつても、カリキュラムの違いから科目の読み替えができない

と、民法も債権法の改正が来年度予定されています。情勢が変化した場合、授業を担当される先生方には、速やかに教科書の改訂をお願いしております。しかし現実が先を歩き過ぎて、それが間に合わない場合もあります。そのような場合には、最新の資料を受講生に配布していただくなどとして、授業を工夫していただいております。そしてこれは、教科書だけに限定されず、話ではありません。通信教育部ではメディア授業も展開しております。メディア授業による「映像と音声で、いつでもどこでも分かりやすく学べる、インターネットによる学修方法」は好評をいただいております。このメディア授業も含めて、教材を常に最新版に保つことも「教育の質保証」、「学生ファースト」に合うものでありますので、着実に進めていきたいと考えております。校友会の皆様も、どうか協力をお願いします。

最後に、校友会の今後のますますのご発展・ご隆盛をお祈りすると同時に、通信教育部にご支援いただけますようお願い申し上げます。

